

国政報告

プレス民主号外 2012年 医療政策版
 民主党 プレス民主編集部 東京都千代田区永田町1-11-1 TEL03-3595-9988

衆議院議員 福島 のぶゆき

政権交代の原動力となった「茨城医師の乱」

長期の自民党政権下では医療は社会的なコストであるとされ、診療報酬は10年間にわたって下げられ続けてきました。その結果、とりわけ地方の医療体制は崩壊の危機に瀕し、私自身選挙区内を一軒一軒歩く中で、医療を受けたくても受けられないお年寄りが多くいたり、医療過疎ともいべき地域が存在したりということを実感してまいりました。現場の実態を知らない医療制度の象徴が「後期高齢者医療制度」の導入であり、そうした政策への反発、とりわけ茨城県医師会の勇気ある行動とこれに対する地域の皆様方の共感が3年前の政権交代の原動力となりました。

■ 診療報酬改定は2回連続でプラスに

こうした思いを受けて、私福島 のぶゆきは、民主党最大規模の議員連盟である「適切な医療費を考える議員連盟」の中核的メンバーとなり、平成22年度、24年度と2回にわたる診療報酬改定の議論で積極的に発言してまいりました。とりわけ24年度改定では、消費増税を控えた厳しい環境の下で与党厚生労働部門会議において大詰めの折衝が行われる中、渾身の思いをこめて主張をさせていただき、結果として医科で1.55%、歯科で1.70%のプラスとなりました。



厚生労働部門会議で
 診療報酬プラス改定を主張

■ 社会保障と 税の一体改革の議論をリード

私は先の消費増税法案の採決では、やむをえない思いで「反対」票を投じさせていただきました。社会保障と税の一体改革の実行が待たないとは言ってもありません。しかし、このたびの消費増税関連法案は、自民党・公明党との三党協議を経た結果、社会保障制度改革の具体的な中身は「社会保障制度改革国民会議」の議論に先送りにされてしまい、「一体改革」とは名ばかりの増税先行法案となってしまいました。国民会議

の正体も、官僚主導の隠れ蓑である「御用審議会」に成り下がりそうな気配です。ましてや増税を担保とした公共事業への重点配分まで条文に加えられてしまいました。これでは自民党長期政権下の政策と同一のものとなることは目に見えております。私は、「茨城医師の乱」を原動力とした政権交代の原点を思い返したときに、反対せざるを得なかったのです。



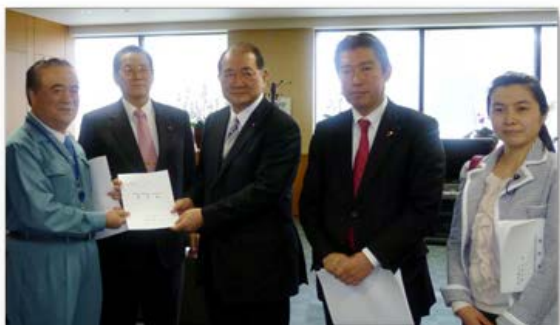
消費税法案採決の様子

■ 薬事法の抜本改正等に尽力

個別分野では、経済産業省パイオ課時代から取り組んできた国際競争力のある医療機器産業の実現に向けて、これまで法律上は医薬品と同一の規制の枠組みにあった医療機器を別立てして扱い、合理的な医療機器の承認審査を行えるようにした歴史的な薬事法改正のとりまとめを薬事法小委員会の中核的メンバーとして行わせていただきました。また、歯科医療議員連盟のメンバーとして野党時代から取り組んできた歯科口腔保健推進法の成立に尽力したほか、これまであまり政策の光が当てられなかった歯科技工士に関わる

(裏面に続く)

さまざまな問題についても厚生労働省と折衝を続けるなど、現場に密着した政策実現に向けて奔走してまいりました。



橋本知事、原中日本医師会長らと厚生労働大臣に要望

■いざというときに役立つ議員として

3・11東日本大震災後は被災地選出の議員として、現場からの要請を受けて医療品輸送車両に対する高速道路の通行許可標章の発行手続きを簡素化させるなど被災地の要望を一つ一つ政府に伝え、可能な限り実現してまいりました。何より

も筑西市民病院が壊滅的な被害を受けたことを受けて、県西地区の医療提供体制を立て直すため、予算委員会で地域医療再生のための国の制度を被災地に重点的に投じるよう要求し、本県に地域医療再生基金が83億円配分されることとなり、その中から新中核病院建設費用が交付されることとなりました。地元の「代議士」として、これまで培ってきたさまざまな人脈を活かしながら、いざいざときに役立つ政治家でありたいと思います。



震災直後の筑西市民病院の様子



真の一体改革の実現に向けて

「社会保障制度と税の一体改革」において三党合意に基づいて成立した「社会保障制度改革基本法」では、自助・自立が強調されております。一方与党案で何箇所も理念として盛り込まれていた「支え合う社会」という文言は、自民党・公明党との協議の結果すべて削除されてしまいました。社会保障とは何のためにあるのか、国家はどこまで国民の生活を保障すべきなのか、そもそもわが国の社会のあるべき姿はどうか、そうした本質的な問題から議論し、政治のプロセスを通じて国民の合意形成を図っていかねば、真の一体改革は実現しません。それこそが政治の原点であると考えます。これまでのような単なる財政の論理、官僚の帳尻合わせの論理による「社会保障制度改革」を行っても、医療・介護等の提供を受ける国民の皆さんや、それを提供する方々にとっては何の意味のないものになってしまうのです。真の「政治主導」はそのためにあるのだという、私の政治の原点を決して忘れることなく行動してまいります。

【医療関係議員連盟等加入一覧】

適切な医療費を考える議員連盟医療機器WT事務局長

医療の無過失補償制度を考える議員連盟／肝炎対策推進議員連盟

高齢者福祉・介護施設を考える議員連盟

障がい者政策推進議員連盟／地域医療における自治体病院の役割を検討するWT

民主党歯科医療議員連盟／有床診療所を応援する議員連盟



のぶゆき 衆議院議員 福島伸享

昭和45年8月生まれ(42歳)

茨大附属中、水戸一高を経て東京大学農学部を卒業。

通商産業省(現・経済産業省)に入省後はバイオ政策、

橋本内閣の行政改革等に携わる。

03年内閣官房にて特区の設立に尽力し退官。

第45回衆院選にて三度目の挑戦で初当選。

現在、農林水産委員会・内閣委員会・震災復興特別委員会(理事)に所属。

水戸市千波町在住、気象予報士の妻と長男の3人家族

福島のはなゆき
メルマガ登録はこちら
reg@fukuchan-japan.
sakura.ne.jp へ空メール

